

編集室

ソニーの社名はラテン語で音を意味する「SONUS」と英語表記の小さな坊や「SONNY」の合体だという。坊やが音楽を楽しむ。社名のことは創業以来初の「無配」を詳報したTBSテレビで知った。

小欄は坊主と呼ばれたころからラジオやテレビに、学生時代にアルバイトをして初めて買ったウオークマンにも「SONY」の4文字はあったが、一度として由来を調べたことはなかった。

カメラ・複写機などのキヤノンは観音様から名付けられた。蚊取り線香の金鳥の社名は大日本除虫菊(株)だ。こうして見ると身の周りに知らないでいたことがなんと多いことか。

かつて「既成事実を疑え」と教えられた。ずっと前からそうなんだと思わずに、なぜそうなんだと疑問を持ってと言われた。医科学の進歩により、常態化していたうさぎ跳びは姿を消し、練習中に水を飲んではいけないとの指導は死語になった。ファッションでも長いズボンをはくと呼ぶようになった。アクセントが違うようだが、時代とともに変われば変わるものである。

その変化。人間にも言えまいか。俺はこうだから、私ってこういう人でしょう。決めつけるのはいかなものか。自分には自分の知らない自分がある、といったのはプロ野球監督、野村克也氏だった。強肩捕手をセンターへ、先発投手を抑えに起用し、選手の新たな能力を引き出していた。

ジーンズの会社「EDWIN」はデニム・DENIMから社名を決めた。Mをひっくり返し、並び順を変えた。

少しのアイデアで風景は変わる。人が変わる。さらなる向上を目指し、飛躍のスイッチを押すのは自分である。

(編集長 久保田茂信)

Staff

◎取材協力

学事部	学生部	国際センター	学生会ほか
各学部事務室	ボランティアステーション	入学センター	
大学院事務室	中央図書館	学友会	

◎写真提供&協力 中大スポーツ新聞部

◎写真提供 AFP通信

◎学生記者

加藤静香	関いつみ	竹田響	中村亮士	伊坂理花
石崎春日子	矢嶋万莉子	澤田紫門	高崎莉世	大藤真里奈
中田実希	佐伯綾香	森田晴香	野村睦	代田知之
田中未来	山口萌絵	小野理世	山下蛍	(順不同)
山口莉奈	田中佑樹	西村卓真	菅野誠一郎	
福田紗友里	晝間祐亮	谷藤美佳	前里実	
武内優里子	齋丸仁志	高瀬杏菜	古山樹里	



おわび

本誌前号・夏号、『アカデミックガウンがきまっています』の記事中、51ページの「それ以降、日本側も来日するドイツ側の教授らに精いっぱいのおもてなしをした」とあるのは、「この種のおもてなしを最初に行ったのは中央大学側である」の誤りでした。さらに「この点がドイツ側から好意的に評価され、相互主義というかたちで今日に至っている。隔年でミュンスターを訪れる中央大学派遣の客員教授は皆この恩恵を被っている」と加筆します。

Next Issue

『HAKUMON Chuo』2014 冬号 NO.239 12月15日発行予定

学生記者が
総力取材!! 乞うご期待!



2014 秋号 NO.238 2014年(平成26年)10月26日発行

発行 中央大学広報室
〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

メールアドレス skubota@tamajs.chuo-u.ac.jp
編集担当 『HAKUMON Chuo』 ☎042-674-2048